

街整 第 190 号

平成 20 年 10 月 29 日

国土交通省道路局長 殿

鹿児島市長 森 博幸



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

貴職におかれましては、日頃から本市政及び道路整備に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびの「今後の道路行政についての意見・提案の提出」にあたり、別紙のとおり回答させていただきます。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

鹿児島県鹿児島市

- 昨年 11 月に公表された「道路の中期計画（素案）」においては、高規格幹線道路の整備における客観的指標として費用対便益（B/C）を 1 次的な評価とし、それに外部効果を加味するという総合評価方式が示されたところである。費用便益を優先する評価方式においては、交通量の少ない地方においては、その事業の妥当性は十分に認められるとはいいがたく、大都市と地方を現行の評価方式において評価する場合にあたっては、地域ごとの交通事情の違いを反映させ、これを解消する「補正係数」のような概念が必要ではないかと感じる。
- 例えば、1 世帯あたりのガソリンに対する年間支出金額を比較すると、本市は東京 23 区・大阪市の約 4 倍、名古屋市の約 1.7 倍となる一方、鉄道運賃を比較すると、東京 23 区の約 1/5、大阪市・名古屋市の約 1/3 となり、自動車交通に頼らざるを得ない本市の交通事情が示されているところである。
- しかし、そもそも大都市と地方を一体として同一の基準で評価するのではなく、「政令指定都市」、「中核市」、「地方小都市」など人口規模に応じたグループ分けを行い、そのグループごとに費用便益や外部効果に加え、先ほどのガソリンの例などの客観的な指標を使用した評価方式を採用することにより地域の実情に近い評価が可能となるのではないかと考えるところである。
- 国におかれては、真に必要な道路整備を熱望する地方の声がもっと反映されるような仕組みの構築と地方への財源の確保をぜひお願いしたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②—1 地域の現状と抱える課題

鹿児島県鹿児島市

○現状

- 本市は高次都市機能が集積する県都として、また南九州における陸・海・空の交通結節点や交流拠点としての役割を有するとともに、錦江湾や桜島などの豊かな自然環境に囲まれ、雄大な眺望、自然景観に恵まれているほか、市街地内には多くの歴史文化環境が残されている。現在、これら本市の特性や特色ある自然、歴史環境、景観を活かした都市づくりを進めるため、総合計画や都市マスタープラン、観光未来戦略などにおいて各種施策を進めているところであるが、これらの計画においても課題として交通体系の整備などが挙げられている。
- 本市の交通体系は国道3号、10号、225号、226号などの広域幹線道路や九州縦貫自動車道などの高規格幹線道路といった広域交通が集中する一方で市街地部におけるこれら広域交通の連絡結節機能が十分でなく、広域通過交通と城内交通が一部経路に集中することで交通混雑・渋滞が深刻となっているほか、シラスという脆弱な特殊土壌と急傾斜地が多いことから台風や集中豪雨による交通の寸断もたびたび見られる状況である。
- そのほか、公共構造物においては、高度経済成長期に作られた橋梁が今後急速に更新の時期を迎え、本市においても、建設後50年を経過する橋梁が20年後には40%を超えることとなり、橋梁の老朽化が進行している状況である。

○課題

- 本市は地形的制約から市街地と市域外を結ぶ経路が東西・南北交通軸に限定され、高規格幹線道路との結節点にあたる中心部や周辺地域から市街地への流出入部などにおいて交通混雑が生じていることから、高規格幹線道路と結節する地域高規格道路の整備や幹線道路におけるバイパス整備が円滑な都市交通を確保する上で喫緊の課題である。また、災害の多い本市において、災害に強いみちづくりという観点からも災害時における代替道路や緊急輸送路の確保は大きな課題となっている。
- これら交通体系の整備のほか、中心市街地の活性化や高度化・多様化するニーズに対応した都市基盤の高度化が求められる中で、道路におけるバリアフリー化といった高齢社会へ向けた都市基盤等の整備のほか、憩いと安らぎのある歩行空間等や良好な都市景観の形成、また環境にやさしい持続可能な都市としての取り組みや都市生活における安全性・快適性の向上などの課題のほか、ストックマネジメントの観点から橋梁の長寿命化対策などの課題が生じている。
- 観光面においても、今後、九州新幹線の全線開通を控え、国内外から観光客の増加が期待されており、南九州観光の玄関口としての機能を有する本市にとって、広域交通ネットワークの強化は観光客の移動における定時性の確保や利便性の向上を図り、指宿、霧島や宮崎といった南九州全体の観光ポテンシャルを高める上でも必要不可欠である。

今後の道路行政についての意見・提案

②—2 地域の目指すべき将来像

鹿児島県鹿児島市

○「第4次鹿児島市総合計画（H14～H23）」

都市像「人とまち 個性が輝く 元気都市・かごしま」

・機能的で多彩な交流が広がるまち「交流拠点都市」

- バリアフリー化を進め、拠点性を高める
- 総合交通ネットワークを構築する
- グローバルな人・情報のネットワークを広げる

・人と自然にやさしい快適なまち「快適環境都市」

- 住みよい暮らしを支える（生活道路：機能的で安全快適な道路環境の整備を進める）

○「かごしま都市マスタープラン（H13～H33）」

将来像「21世紀・地球時代に輝きを放つ交流拠点都市」

・交通体系の基本方針

- 南の交流拠点としての陸、海、空の広域交通ネットワークの形成
- 都市活動を支える都市の骨格となる幹線道路網の整備
- 人と環境にやさしい公共交通の機能強化
- 交通需要マネジメント等による渋滞の解消
- 安全で快適な人にやさしい道路環境の整備

○「鹿児島市観光未来戦略（H17～H23）」

基本コンセプト「“一味違う鹿児島” 魅力多彩な国際観光都市の創造」

重点戦略：国内外を結ぶ総合交通ネットワークの形成

- 高規格幹線道路等の整備促進

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

鹿児島県鹿児島市

○ 重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
【活力分野】 1.国際競争力強化のための交通サービスの向上 2.地域活力の向上 3.都市交通の快適性、利便性の向上 【安全分野】 1.水害等の災害に強い国土づくり 2.総合的な交通安全対策	1.地域高規格道路の整備 （鹿児島東西・南北幹線道路） 2.幹線道路におけるバイパス整備 （国道 10 号鹿児島北バイパス） 3.広域交通ネットワークの強化 （国道 226 号平川道路） 1.災害に強いみちづくり （県道伊集院蒲生溝辺線（外環状道路）） （県道桜島港黒神線（緊急輸送道路）） 2.都市における安全性・快適性の向上 （谷山地区連続立体交差事業）	1～3 中心部における交通混雑の解消を図り、鹿児島空港や重要港湾である鹿児島港を結ぶ東西・南北交通軸の強化を図るとともに、鹿児島市街地の流出入部における交通混雑の解消を図ることで、観光や物流における移動や輸送の定時性の確保や輸送効率の向上が期待され、農水産業の振興や交流拠点都市としての本市の機能強化が図られる。 1.鹿児島市と鹿児島空港を結ぶ外環状道路としての役割のほか、過去の水害において寸断された国道 10 号の代替道路としての役割が期待される 火山活動が活発な桜島において、住民の避難路が確保されるとともに、産業・観光面から地域振興にも寄与する。 2.踏切における事故の減少と渋滞の解消が図られるなど、都市交通の円滑化と鉄道による地域分断の解消が図られる	

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

鹿児島県鹿児島市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
【暮らし・環境分野】 1.バリアフリー社会の形成 2.良好な生活空間の形成 3.良好な景観の形成 4.地球温暖化の防止 【横断的な政策課題分野】 1.計画的・効率的な維持管理や更新の推進	1.道路におけるバリアフリー化 （市道バリアフリー推進事業） 2.憩いと安らぎのある歩行空間等 （ブルースカイ計画事業（電線類地中化）） （幹線道路整備計画事業） （土地区画整理事業） 3.良好な都市景観の形成 （軌道敷緑化整備事業） 4.環境にやさしい持続可能な都市 （街路事業） 1.橋梁の長寿命化対策 （鹿児島市橋梁長寿命化修繕計画）	1.2 ユニバーサルデザインの理念に基づく歩行空間を形成することにより移動の円滑化が図られ、安全で快適な歩行者空間や住環境が確保されるほか、都市景観が向上することにより、まちなかの回遊性の向上が図られ、中心市街地の活性化が期待できる。 また、広域交通ネットワークと機能分担を図るとともに、地域間道路として、日常に密着した生活道路網の整備を推進する。 3.緑化の推進により良好な都市景観を形成するとともに、ヒートアイランド現象の緩和など地球温暖化防止の効果も期待できる。 4.住みよい暮らしのための質の向上と快適な居住環境の創出を図り、さらに渋滞の緩和を図ることで CO ₂ 削減などの地球温暖化の防止に資する。 1.予防的な修繕や計画的な架け替えを行うことにより、道路網の安全性・信頼性の確保が図られるとともに、費用の縮減が期待される。	

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

鹿児島県鹿児島市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<参考> ◎本市は 20 年度予算において、右の 5 点を重点的取組としている	●地球のため未来のための環境リーディングシティ鹿児島の創造 ・市電軌道敷緑化整備事業 ・街路事業の推進 ・谷山地区連続立体交差事業 ・ブルースカイ計画事業 ・市道バリアフリー推進事業 ●人が行き交うにぎわいと活力あふれる魅力多彩なまちづくり ●全ての世代が生き生きと健やかに暮らせるまちづくり ●市民みんなで支えあう住みよい安全な地域社会づくり ●分権時代に対応した自主自立の行財政運営の推進 ・公共建築物ストックマネジメント事業	●軌道敷の緑化を引き続き進めるとともに、公共施設などに緑を積極的に取り入れ、緑あふれる街並みづくりを推進するほか、様々な都市基盤の整備に取り組み、住みよい暮らしのための質の向上を図り、快適な居住環境の創出に努める ●観光未来戦略に基づき、本市が有する観光資源の掘り起こしを着実に進めるほか、中心市街地活性化基本計画に盛り込まれた事業を着実に実施する ●子供たちの育成環境の健全化や家庭と地域社会との絆を深める機会の創出に努めるほか、高齢者の充実した暮らしを送るため、社会参加の促進等を図る ●災害に強いまちづくりをめざし、都市基盤をさらに強化するとともに、ハード・ソフト両面からの防災対策の充実を図る ●健全財政を堅持するため、安定的な歳入の確保に取り組み、中長期的な視点に立って、歳出の削減を進める	